



AOMORI・IWATE・MIYAGI・AKITA・YAMAGATA・FUKUSHIMA

第4号

発行所
東北地区屋外広告美術業組合連合会
情報文化委員会
事務局 TEL 022-257-0437

第15回東北六県公共キャンペーン作品展 津軽路に咲く作品の華!!

建設大臣賞 地元アートサイン 平館さん (青森県)

■期日 平成4年10月16日, 17日, 18日, (3日間) ■会場 青森市 サンロード青森2F催事場



建設大臣賞 アートサイン平館 (青森)



日広連賞 (株)ニシタ美術工芸 (青森)



会場風景

〈講評〉

審査を終えて

審査員 弘前大学教授 村上善男

公共キャンペーン展という、厳しいテーマ性を持ったコンクールに、ふさわしい力作が寄せられた。選考に苦労したとすれば、甲乙つけがたい制作者の情熱に、選者が圧倒されたためであろう。

アイデアはよく理解できるが、テクニクに問題が、という作品が少なく、技術の向上ぶりには目を見はった。建設大臣賞のアートサイン平館氏の作品は、地球温暖化がテーマであるが、ペンギンをあしらうことによって、画面にほのぼのとした印象を与える一方で、危機が、すぐそこに迫っていることを示して、成功していた。

また、日広連会長賞のニシタ美術工芸氏の作品は、技術がテーマに、ぴったりとよりそったという印象を受けた。地区連会長賞の石沢工業氏は、テーマが厳しく、内容もまた厳しい。こうした仕事はともすれば、センチメンタルなものに流れやすいのだが、厳しいまままで終わっているのはいい。

総じて、今回の作品は、前にも述べたように力作ぞろいであった。審査員泣かせの審査は、思いのほか手間だったが、楽しい審査であったと思う。

デザイナーの皆さんに感謝したいと思うのは、作品レベルを、自分の問題として深く考えている。その態度に対してだ。日々の、雑然とした仕事もなくはない中で、研究をおこなう見事というほかない。多少なりとも同じような仕事をしている私自身、反省させられることばかりであった。

この展覧会も回を重ね、一五回になるといふ。会員の皆さんの御発展を念じている。最後に、根田サイン氏の作品について一言。21世紀に、赤トンボがいるだろうか、とする黒いユーモアが印象的だった。思いきって、三賞の中に、と思ったほどである。審査は大変にむずかかった。でも楽しかった。

一九九三年を迎える

青森県屋外広告美術業協同組合
情報文化委員長 貝瀬俊治

毎年、中小企業団体中央会や日広連から、組合運営状況実態調査票とか団体実態調査表の記入提出を求められる。その中に組合運営上の問題点として、第一に取り上げられるのは、「組合員の協同意識の欠如」、「組合員の協力不足」がある。

事実、組合の日常の運営で、特に運営の機関に携わる、役員は時に遺瀆のない淋しさと空しさを感じることが度々であると思ふ。前号にも書いたことの繰返しになるが、われわれは端的に言ふならば

「社会的地位と経済的地位が現実低い」
このためにわれわれ業者は肩を組んで、自力をたかめ、社会的な活動に貢献する等さまざまな活動によって己の社会的経済的地位を一步一步たかめてゆかなければならないといふ自明の理が、身につかないでいる。それが協同意識の欠如とか協力不足とかと指摘される。今までは、いや今でも組合のどこかで、

「組合に加入してもなんのメリットもない。」
「組合は組合費を徴収しているのに、われわれに何もしてくれない。」
「うっかり役員にでもなれば、ただ働きをさせられ、自分のしごとにマイナスになる。」

こんな声がまだ聞かれる。さびしいことである。組合をつくったのはわれわれひとりひとりである。組合員同志が肩をがっちり組んだ協同の力が、われわれの繁栄、向上のみを切り開ききめてなのである。

「そのため、費用を分担しよう。」
「役員も進んで引受けよう。」
といふ創立時の初心を忘れてはならない。前号にも、組合といふものは上意下達といふ上下の縦の関係でなく、自由・民主・協同の横の関係でなければならぬと書いたが、たしかにそうであるとは思っても、実際には組合機構といふ図形をつくって組織化しても、縦の上意下達に馴れ、その方が面倒くさくていいと言ふ。そこに二十一年の年月を経ても、組合の進歩がなく、ただ足ぶみをし、社会の進運の底辺を漂っている原因があると思ふ。

われわれは、「組合員の協同意識の欠如」「組合員の協力不足」の指摘があたっているかどうか、自分はどうなのか、また肩を組み合わせ仲間がどうかを考えてみたいものと思ふ。初心忘れのべからず」といふ諺のように。さて、われわれも尚ほ底辺をさまよっていたとしても、社会の進運は、われわれにさまざま要請をする。それに応じなければ、われわれ、取り残されるか、切り捨てられる羽目に陥ると思ふ。

第一はわれわれの業種の確立がなされずにとっちらかすの自由業の分類に甘んじている限り、「こうもり」は鳥類か獣類かとの物語りに似て経済界の活動や友好の仲間入りができない。特に異種産業界との交流の場合、われわれの席が設けられない憾みがある。

員の意欲を持つ環境作りなどと、難問をどう解決しなければならぬか、時間一杯熱意ある討論がされました。

九月六日、国体開催直前に「広告の日」キャンペーンとして各支部でアイデアある企画をし、組合をPRしました。山形では、山形市七日町の繁華街で、門標記名、自転車名入をチャリティーとして行い、大勢の人たちが列を作った盛況で、チャリティー金を愛の事業団に寄託しました。以上、山広美の一年間の行事を主なものだけ報告しましたが、これも、この一年間を通して、チームワークとは仲よくすることだけではなく、組合全体の目標や仕事遂行過程の中で、ウマが合うからチームワークがいいというのは表面的解決にすぎず、

福広美展20年の足跡

福広美のパネル展も数えて(平成四年にて)20回展を終一ツの大きな仕事が出来たと思う。昭和47年郡山市を会場としての第一回展のスタート、当時、社会は高度経済成長期の真只中にあり我が業界に於いてもそれなりに恩恵に欲した事は確かである。

そのような社会背景を持ってスタートした広美展。パネル展のデザインの内容も、色々とバラエティに富んではいるが、やはり交通安全をテーマにした内容の作品が多く、それなりに考えさせられた記憶が今でも鮮明にやみがえって来る。回を重ね当初のデザインと現在とを比較するとかなりの表現に動きがみられ、密度の高い作品が多く見受けられる様になった。堅かった頭の中身が20回もトレーニングされると、どうにか、こうにか、その成果の程が表われてくるものだ。パネル展に感謝!

とは言うものの、ここ迄来たパネル展もやはり20回を数えると幾ら成功裡に有ると言えども飽きのこない苦はない。あの席、この席から今後の継続に対し、どうあるべきか、どのようにすべきか、20回展終了を節目として、会員一同

いいにくいこともいい合い、互いに士気を高めていかなければならないと思えます。色々な事をいい合い、一人、一人の絆が固く結ばれた事は組合にとって大きな意義があったと思います。

今、我が山広美は二十一世紀を間近にして新しい理想に向かって、躍動しようとしています。



福島県情報文化委員長 黒澤 功



知恵を出し合ってより良い方向に向けて頭のトレーニングと、技能の向上と共に研鑽すべきではないでしょうか。従来の有り方と大きく別れるところもあるが、各県との兼ね合いもあるので一考を要す。また一ツ頭の痛い今後の課題になることは間違いないだろう。一部の単組である福島支部に於いては各県に合せる形で二世会を一九九一年四月二十六日(金)に設立発足し第一回の会合が福島ビューホテルに於いて開催された。初代会長に、ハセガワ社長が就任され、積極的な活動を繰り返し、他支部に対し強力なアピールを行って居る。

こう言った組織が各支部に拡大し、

県単位の青年部として、他県と同様アクションを起し業界に対しリード的な役割を果し、強力、且つ繊細にして、おこることなく、本県の今年度基本目標である『事業参加の意識高揚と参加

発想の転換と自己改革

山形県青年部 丹野 聖一

「昨日のつづきを今日、明日と漫然と続け、客が来ない、仕事がないとばかり、一向に自ら改善しようとしないうち、このよう商店主、商店街がたかさん有ります。数有る有名商店街の大部分が十年後には、シャッターの波に埋まり、そのうち電気も消えるだろう。云々」これは、「21世紀への明るく展望」と題したパネルディスカッションの中で、夢多く、熱っぽく語った居る並ぶパネリストの最後に意見発表したある若き商店経営者の「ハチのひと射し」でした。

私は、いったい何を言ひ出すのだろうと、目をしばたかせ、話に聴き入りました。彼の話は、発想の転換と自己資質の向上という内容に終始したと思われまます。

中でも、彼いわく、「私共のように小さな会社には、大学出の優秀な人材は、来てくれません。したがって望まないことにしました。しかし、優秀な人材は要らない訳ではありませんので、喜んで来てくれる人材を、大学出並に引き上げてやろうじゃないか。」と、言うのです。それには、機会を見付けずには時間を惜しまず、講演、研究、研修会等に出向させ、それを、社内でもフォーローの研修会を行い、一人の情報・知識を社員全体に浸透させる。社員一人一人の資質が向上すればおのずと会

率向上の実践」
『組織の拡充、調和と活性化の実践』に青年部として強力を惜しまず献身的に組合に参画することを期待するものであります。

社全体の資質が向上される。」私自身この話で、目の覚める思いがしました。

- ・世の常識は、日に日に変わって来る、変わった事を自分のものにする。
- ・煮蛙症候群にならない。
- ・昨日と違った今日、明日を目指す。
- ・体力を無視した活動で青息吐息にならない。
- ・気宇壮大なテーマに酔わない。
- ・貴重な時間を使っているのだという意識を常にもつ。等等...

以上は、組合青年部全国交流会に出席したときの講師の弁の中の一部です。

団体青年部理事という立場で、いろいろな業種、地域の方々と触合う機会が多い事は、私にとって色々な形で財産になっていると思ひます。良質の資料を多く持っている事が、良い仕事をするうえでの最大の要因だ。」と言うのが私の持論ですので、これからも良質の資料を求めて機会を探し、又人との触合いに積極的な行動を取って行きたいと思っておりますし、世の中には自分の知らないことを、経験や知識として持っている方達がたくさんいます。そこで、それらの方々の経験や知識を、私の良質の資料とし、これからの生活、仕事を進めて行くうえでの「発想の転換」や「自己改革」の材料として使わせて戴きたいと思ひています。

平成四年度地区連 各委員会開催状況

- | | | |
|---------|--------|----------|
| 行政対策委員会 | 五月十八日 | 五ツ橋会館 |
| 情報文化委員会 | 九月二十五日 | 福島開拓会館 |
| 技能開発委員会 | 五月十二日 | 青森教育厚生会館 |
| 事業厚生委員会 | 七月九日 | 秋田彌高会館 |
| 組織振興委員会 | 九月三日 | 岩手仁王会館 |
| 財政管理委員会 | 十二月九日 | 仙台弥生会館 |

あらゆる看板 ディスプレー材料

—皆様のニーズの答える—

株式会社 弘栄産商

仙台市宮城野区東仙台 5-38-16
TEL (022) 295-2255(代)



塗料・塗装関連資材・機材
看板・プラスチック資材・機材の総合商社

株式会社 光彩塗料商会

代表取締役社長 今野 紳
常務取締役 二階堂 宏信

- | | | |
|--------|-------------------------|--|
| 本社 | 〒983 仙台市宮城野区東仙台四丁目3番43号 | TEL (022)293-3151(代) FAX (022)293-3154 |
| 多賀城営業所 | 〒985 多賀城市中央三丁目7番5号 | TEL (022)364-2921(代) FAX (022)364-2046 |
| 福島原町店 | 〒975 福島県原町市朱来字出 163番の3 | TEL (0244)22-2836(代) |